

[illegible]

東京楽野云報 NO.59

広	大	な	田	圃	の	中	を	走	る	大	槻	・	多	田	野	周
辺	の	道	路	に	会	場	・	コ	ー	ス	を	変	更	し	て	何
と	か	開	催	に	こ	ぎ	つ	け	ま	し	た	。				
	こ	こ	で	、	こ	の	大	会	の	40	年	を	超	え	る	歴
史	を	振	り	返	っ	て	み	た	い	と	思	い	ま	す	。	
	昭	和	49	(1974)	年	、	88	期	生	の	私	が	3	年		
生	の	時	(鈴	木	勝	枝	校	長	先	生	で	し	た)	、	創
立	90	周	年	の	記	念	事	業	の	一	環	と	し	て	、	翌
年	の	第	1	回	駅	伝	に	つ	な	が	る	プ	レ	大	会	が
学	校	周	辺	コ	ー	ス	で	開	催	さ	れ	た	の	が	、	そ
も	そ	も	の	始	ま	り	で	す	。							
	翌	昭	和	50	(1975)	年	11	月	8	日	、	創	立	90		
周	年	第	1	回	校	内	駅	伝	競	争	大	会	が	開	催	さ
れ	、	安	積	高	一	柴	宮	一	大	槻	一	片	平	一	多	田
野	一	三	穂	田	一	安	積	町	一	安	積	高	ゴ	一	ル	の
15	区	間	46	km	(!!)	の	コ	ー	ス	を	ク	ラ	ス	対	抗	
で	健	脚	を	競	い	、	91	期	1	年	1	組	が	2	時	間
54	分	49	秒	で	優	勝	を	飾	り	ま	し	た	。			
	そ	の	後	、	昭	和	55	年	の	第	6	回	大	会	で	悲
劇	が	起	き	ま	し	た	。	自	転	車	で	応	援	に	向	か
っ	て	い	た	生	徒	が	、	暴	走	車	に	追	突	さ	れ	て
亡	く	な	っ	た	の	で	す	。	翌	年	の	大	会	は	、	生
徒	へ	の	哀	悼	の	意	味	も	あ	り	中	止	に	。	翌	年
も	開	催	に	つ	い	て	か	な	り	議	論	し	た	よ	う	で
す	が	、	亡	く	な	っ	た	生	徒	の	御	遺	族	か	ら	も
大	会	を	継	続	し	て	ほ	し	い	と	い	う	考	え	が	学
校	に	伝	え	ら	れ	た	こ	と	な	ど	か	ら	、	最	終	的
に	は	大	会	を	継	続	す	る	こ	と	と	な	り	、	昭	和
59	(1984)	年	の	創	立	100	周	年	第	10	回	大	会	ま		
で	続	き	ま	し	た	。	し	か	し	、	交	通	事	情	の	悪

化は如何ともしがたく、翌昭和60(1985)年には、駅伝大会を「発展的継承」(創立110年誌)し、原則全員が約10km(共学後は、女子5kmコースを追加)を走る「校内ロードレース大会」に姿を変え、東山霊園を会場として平成27(2015)年の40回大会迄続きました。その間、平成7(1995)年には、第50回ふくしま国体のため中止となったり、平成16(2004)年には、120周年を記念して、猪苗代湖畔から安積歴史博物館まで安積疎水をたどる32kmの強歩大会(安積野ウォーク)(マラソン大会とは違い、順位競争はしなかった)とするなどの変遷はありましたが、東山で30年続いた安積の伝統行事となっただけです。東山霊園が除染事業のため使用できないと分かり、中止も含めて検討したのですが、伝統行事であり、実施することにはすんなり決まりました。しかし、霊園のように、ある程度閉じられた空間というロードレースに適した場所を探すのは大変でしたが、体育科の教員が中心となり、何とか代わりのコースを設定することができ(私も何度もコースを下見しました)、P.T.A、安積桑野会、桜桑会の協力を得て、無事終了することができました。改めて感謝の意を表したいと思います。

今年平成29(2017)年の干支は、

丁酉(ひのと)り)。私事で恐縮ですが、丁酉は私自身の干支、と言うことは「還暦」であり平成28年度末に60歳定年退職となりました。私は、2度に亙る母校勤務(教諭として11年間、校長として4年間の計15年間)を経験し、また、90周年を3年生の生徒として、110周年を教諭として、そして130周年を校長として、不思議なことにちょうど20年刻みで大きな周年行事を経験することができた大変幸せな男です。このサイクルだと、私が生きていればですが、77歳の年に150周年を迎えることになりそうです。何らかの形で関わることはできればと思っておりますが、果たしてその思いは叶うのか…。

さて、安積は平成29年度に創立133周年を迎え、学校祭である紫旗祭が130周年以来の開催となります。

私は退職となりますが、七州の覇と称えられるに相応しい安積高校にしていくこと、更に大きくなっていく「安積の殿堂」を日本一揺るぎないものとする、この二つを念頭に置き、創立150周年を見据え安積の教職員一同しっかりと努めてまいりますので、これから東京桑野会の皆様からの温かい御支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。